第 17 講 【近代編】帝国主義と諸地域の抵抗
PART2 帝国主義時代の欧米諸国 2

Chapter 1　ドイツの対外拡大とロシアの改革

目標　ヴィルヘルム２世の帝国主義政策の影響を理解しよう。
血の日曜日事件以降の第一次ロシア革命が，どのように決着したのかをおさえよう。

1　ドイツの帝国主義政策

①**ビスマルク**の政治

A　内政

1878 年　**社会主義者鎮圧法**で**ドイツ社会主義労働者党**への弾圧を強化

B　外政

1882 年　ドイツ・オーストリア・イタリアの**三国同盟**を結ぶ

1887 年　ロシアと**再保障条約**を結ぶ

※フランスの孤立化とヨーロッパの勢力均衡を目指す**ビスマルク体制**。

②新皇帝〔　　　　　　　　　　　　〕の政治

A　内政

1890 年　政策上の対立からビスマルクが辞任

1890 年　**社会主義者鎮圧法**を廃止し，労働者との融和を図る

1890 年　ドイツ社会主義労働者党が〔　　　　　　　　　　　　〕と改称

※漸進的な社会改良を目指す**修正主義**が支持される。

B　外政

〔　　　　　　　　〕と呼ばれる対外膨張政策に転じる

1890 年　拡大政策のためロシアとの**再保障条約**を破棄

1898 年　清から山東半島の**膠州湾**を租借

1899 年　オスマン帝国から**バグダード鉄道敷設権**を獲得

→ベルリン，イスタンブル（ビザンティウム），バグダードを結ぶ**３Ｂ政策**を進める

→イギリスの**３Ｃ政策**（カイロ，ケープタウン，カルカッタ）と対立

1905年　モロッコ進出を画策し，**モロッコ事件**（第一次）をおこす

2　ロシアの帝国主義と第一次ロシア革命

①［　　　　　　　　　　　］の即位

A　皇帝による専制政治（ツァーリズム）を継承

B　［　　　　　　　　］（1894年）によってフランス資本導入。産業革命が進展する

C　ロシアの東西を結ぶ全長9300kmの［　　　　　　　　　　　　］が完成

②ロシアの諸政党

1898年　マルクス主義政党［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］結成

→**レーニン**が指導する過激な［　　　　　　　　　　　　］（多数派）と，プレハーノフが指導する穏健な［　　　　　　　　　　　　］（少数派）に分裂

1901年　ナロードニキの流れを汲む［　　　　　　　　　　］（エスエル党）結成

1905年　ブルジョワ自由主義者の政党［　　　　　　　　　　］（カデット党）結成

③第一次ロシア革命

1904年　**日露戦争**が勃発

1905年　戦況悪化から，［　　　　　　　　　　　　　　］がおこる（**第一次ロシア革命**）

※生活の改善，戦争の中止を皇帝に請願するデモ隊に，軍隊が発砲。

1905年　労働者が［　　　　　　　　　　］（評議会）を組織。革命が進む

1905年　ニコライ2世が［　　　　　　　　］を出す

※国会（**ドゥーマ**）開設，憲法制定などを約束。改革派の［　　　　　　　　］を首相に登用するが，革命が沈静化すると再び専制政治を強化。

1906年　［　　　　　　　　　　　　］が首相になり，反動政治を進めて革命を弾圧

※**ミール**（農村共同体）の解体と自作農の創出を進める。

まとめ　世界政策によって拡大を推し進めたことで英・仏・露との関係が悪化していった。ニコライ2世は十月宣言で国会設立などを約束したが，革命運動が鎮静すると再び専制的体制に戻った。

Chapter 2　アメリカの発展

目標
アメリカが拡大政策に転換した流れを理解しよう。
帝国主義の時代にアメリカがどの地域に拡大したのかを確認しよう。

1　拡大政策への転換

①産業革命の進展

石炭・石油・鉄鋼などの重工業が躍進，19 世紀末には**世界一の工業国**になる

1882 年　**中国人移民禁止法**が成立，移民の制限がはじまる

②労働運動・農民運動の高揚

1886 年　**アメリカ労働総同盟**（**AFL**）が結成される

③独占資本の出現

スタンダード石油会社を創設した**ロックフェラー**などが，**トラスト**（企業合同）を形成

→ 1890 年　独占を禁止する〔　　　　　　　　　　　　〕を制定

※独占企業の台頭に対し，独占の規制を求める「**革新主義**」運動が広まる。

④**フロンティア**（開拓地と未開拓地の境界）の終焉

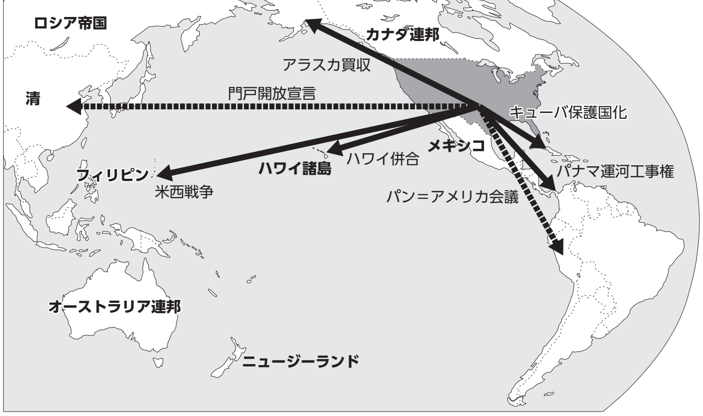
1886 年　アパッチ族の蜂起を最後に，先住民による組織的抵抗が終わる

1890 年代　**フロンティアの消滅**を宣言

⑤孤立主義から拡大政策への転換

工業力の拡大に対して，国内市場の開拓が遅れる

1889 年　ワシントンで第 1 回〔　　　　　　　　　　　　　　　　〕を主催，ラテンアメリカへの影響力を強める



アメリカの拡大政策による進出先

2　アメリカの帝国主義政策

①第 25 代大統領〔　　　　　　　　　　　〕(共和党)

帝国主義政策を開始，海外進出を積極的に推進

1898 年　〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕(米西戦争)

※スペインの植民地〔　　　　　　　　　〕の独立支援を口実に, スペインに開戦。

→フィリピン，**グアム**，**プエルトリコ**を獲得

1898 年　軍事上の要地である〔　　　　　　〕を併合

1899 年　国務長官**ジョン＝ヘイ**が〔　　　　　　　　　　　〕を出す

※中国進出が遅れたアメリカは**門戸開放**，**機会均等**，**領土保全**の 3 原則を列強に提唱。

②第 26 代大統領〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕(共和党)

カリブ海政策を展開, 軍事力を背景にラテンアメリカ諸国に干渉(「〔　　　　　　　　　〕」)

1901 年　**プラット条項**により，**キューバ**を事実上の保護国化

1902 年　**フィリピン＝アメリカ戦争**に勝利し，フィリピンを植民地とする

1903 年　**パナマ**をコロンビアから分離独立させ,〔　　　　　　　　　〕の工事権を獲得

③第 27 代大統領**タフト**(共和党)

「ドル外交」を進め，中国の鉄道敷設，中米への投資による市場開拓

④第 28 代大統領〔　　　　　　　　　　〕(民主党)

A　「新しい自由」を掲げ，反トラスト法の強化などを行う

B　共和党の棍棒外交を批判,「**宣教師外交**」を展開

→ 1914 年　**パナマ運河**が開通，カリブ海・太平洋を結ぶルートを確保

まとめ

フロンティアが消滅すると，工業力を背景に資本投下を行うため，孤立主義から拡大政策に転換した。

フィリピン，グアム，ハワイなどの太平洋や，キューバやプエルトリコなどのカリブ海に進出した。

第17講 PART 2 確認問題

1 世界政策と呼ばれる対外膨張政策を開始したドイツ皇帝はだれか。

① ヴィルヘルム1世　② ヴィルヘルム2世
③ フリードリヒ1世　④ フリードリヒ2世

2 世界政策の展開時期にドイツが清から租借したのはどこか。

① 旅順　② 大連
③ 膠州湾　④ 広州湾

3 ロシア社会民主労働党から分離した，ボリシェヴィキを率いた人物はだれか。

① マルクス　② プレハーノフ
③ エンゲルス　④ レーニン

4 第一次ロシア革命のきっかけとなった，軍隊による民衆への発砲事件はどれか。

① 血の週間　② サン＝バルテルミの虐殺
③ 血の日曜日事件　④ ブーランジェ事件

5 第一次ロシア革命を鎮静化するため，十月宣言を出した皇帝はだれか。

① アレクサンドル1世　② アレクサンドル2世
③ ニコライ1世　④ ニコライ2世

6 キューバ独立支援を口実に，スペインに開戦した大統領はだれか。

① タフト　② セオドア = ローズヴェルト
③ マッキンリー　④ ウィルソン

7 軍事力を背景として棍棒外交を行った，アメリカ大統領はだれか。

① マッキンリー　② セオドア = ローズヴェルト
③ タフト　④ ウィルソン

8 1901 年のプラット条項により，事実上アメリカの保護国とされた国はどこか。

① フィリピン　② メキシコ
③ ハワイ　④ キューバ

第 17 講 PART 2　確認問題 解答

1 解答：②　1888 年にドイツ皇帝となった**ヴィルヘルム 2 世**は，ビスマルクを引退させ，積極的な対外膨張政策（世界政策）をはじめた。

2 解答：③　ヴィルヘルム 2 世の時代，ドイツは，清から山東半島の**膠州湾**を租借した。

3 解答：④　**レーニン**は，ボリシェヴィキを率いて社会主義改革を追求した。

4 解答：③　第一次ロシア革命は，1905 年 1 月 22 日（日曜日）の**血の日曜日事件**をきっかけにはじまった。

5 解答：④　**ニコライ 2 世**は，第一次ロシア革命を鎮静化するため，十月宣言を出して国会開設，憲法制定などを約束した。

6 解答：③　**マッキンリー**大統領は，スペインの植民地キューバの独立支援を口実に，1898 年にアメリカ = スペイン戦争をおこした。

7 解答：②　**セオドア = ローズヴェルト**大統領は，ラテンアメリカ諸国に対して棍棒外交を展開した。

8 解答：④　アメリカはキューバ独立の際，キューバ憲法にプラット条項を盛り込み，**キューバ**を事実上保護国化した。